

発議

議員発議第1号

議会会議規則の一部を改正する議会規則の採決
《全員賛成可決》

議員発議第2号

議会委員会の条例の一部を改正する条例の採決
《全員賛成可決》

※発議1号・2号の改正は、地方自治法の一部改正によるものである。

追加発議

追加発議第1号

「子どもの連れ去りや引き離しを禁止し、親子の面会交流に関する国内法の整備を求める意見書」の提出。
《全員賛成可決》



陳情審査結果

受理番号	件名	提出者(敬称略)	審査結果
1	塩谷高等学校跡地を日々輝学園高等学校へ貸与する条件として施設に宿泊機能を有しないことを求める陳情書	塩谷町商工会会長 福田 徳一 塩谷町観光協会会長 渡辺 春夫	採 択
2	「子どもの連れ去りや引き離しを禁止し、親子の面会交流に関する国内法の整備を求める意見書」の提出を求める陳情書	塩谷町大字佐貫992-1 親子の面会交流を実現する全国ネットワーク塩谷支部代表 出口 公信	採 択

平成25年1月～3月中の主な議会活動

3月		2月		1月	
28日	26日	19日	18日	23日	18日
1日	4日	5日	12・13日	1日	13日
6日	8日	6日	19日	6日	6日
12日	18日	12日	27日	19日	27日
19日	18日	18日	27日	19日	27日
26日	28日	26日	28日	26日	28日
消防年頭訓示式	塩谷町賀詞交歓会	成人式	福島県鏡石町議会運営委員会事務調査	米町	
塩谷町PTA連絡協議会代議員会	塩谷市町議会議員行政懇談会	塩谷町議会議員行政懇談会	立志式	塩谷町PTA連絡協議会代議員会	
塩谷広域定例会(行政視察(静岡県磐田市))	栃木県町村議会議長会第3回議長会	栃木県町村議会議長会第3回議長会	全員協議会	全員協議会	
全員協議会	全員協議会	全員協議会	全員協議会	全員協議会	
塩谷高校卒業式並びに閉校式	日々輝学園高校卒業式	主要地方道藤原宇都宮線玉生バイパス開通式	第2回定例会	塩谷中学校卒業式	
塩谷広域現金出納検査	中学生海外派遣実施委員会	奨学生選考委員会	町内小学校卒業式	中小企業融資振興会理事會	
春の交通安全運動推進会議	議会運営委員会	第3回臨時議会			

財政健全化委員会設置は

A ぜひ検討したい

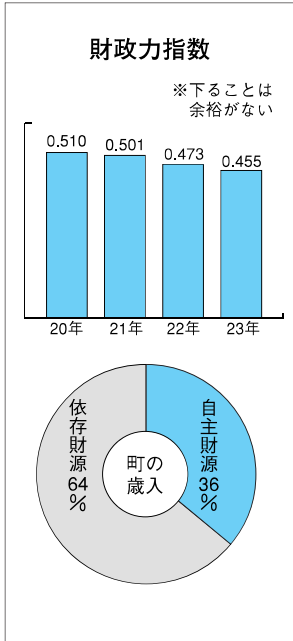
問 当町の財政状況は自主財源30%弱依存財源50%超える、今後高齢化に伴い社会保障費の増、繰出金の増加等財政の硬直化は進む、又世代間の不公平の拡大など大きな足か

答 せと成る。どの様に対応するのが。町長 ご指摘の通り自主財源36%依存財源64%で国の財政状況に左右される。財政運営に当っては、行政評価制度の充実に

問 務事業の適正化支出削減を図る必要がある。四年前に庁内に財政健全化対策推進委員会の設置を依頼しましたが、設置されな

問 公共施設の木造建築推進についてどの様に取り組むのか。町長 町でも公共施設に於ける木材利用促進に関する方針を策定致しました。関係部署に周知し町有施設の木造化を図りたい

問 役場の建物を、大変に危険な建物です。災害対策本部でもある。又福祉センターに致しても正面が使用出来ない。非常に使



財政健全化委員会設置は

ぜひ検討したい



手塚礼知 議員



陳情審査結果

受理番号1

○総務産業建設委員長報告

「塩谷高等学校跡地を日々輝学園高等学校へ貸与する条件として施設に宿泊機能を有しないことを求める陳情」ですが、現在研修・学習での町内各宿泊施設の利用度は非常に大きく、経営に大きな影響を及ぼすことは必至です。で、全会一致で採択しました。

受理番号2

○教育福祉常任委員長報告

「子どもの連れ去りや引き離しを禁止し、親子の面会交流に関する国内法の整備を求める意見書」の提出を求める陳情ですが、この陳情に係る国際法のハーグ条約加盟について国の動向をみてからという意見もありましたが、国内法の整備を求める内容となっていることなどにより、賛成多数で採択しました。



未来を担う子どもたちを不幸にしないために、以下の三点を強く要望し、連れ去り、引き離しを禁止する法整備に関する意見書を、衆参両議長、内閣総理大臣、法務大臣、厚生労働大臣へ提出しました。

- (1) 悪意ある連れ去り引き離しを児童虐待の定義に加え、法的な歯止めをかけることを求める。
- (2) どちらの親がより相手方に友好的であるか、面会交流に積極的であるかを比較する友好親優先則の導入を求める。
- (3) 養育費や面会交流の詳細を定めた、養育プラン作成の義務化と、相談、支援制度の整備をすすめることを求める。

議会を 傍聴しましょう

議会の傍聴は、町政を知り、皆さんの選んだ議員の議会活動を理解するよい機会です。



編集後記

一抹の寂しさを感じるのは、春が別れと出会いの季節といわれるからだろうか。新たな出会いに期待をしようと思う。

春秋戦国時代の中国、楚の人が舟で揚子江を渡っていた時、刀を落としてしまった。舟に印を付けて「ここから落ちた」と言って捜したが見つからなかった。舟が動いていることに気付かない、つまり時が流れていることに気付かないという話だが、時代とともに、人の考えも価値観も変化するという事を肝に銘じなければならぬと思う。ただし世の中には変わってはいけないものも沢山あると思っているのだが。

君嶋 恒夫